

広島県中小企業団体中央会 2013年10月分情報連絡一覧表

(食料品)

●食料品

売上高においては前月比 7.4%増加、前年同月比 8.9%減少、累計比 7.4%減少となった。

(木材・木製品)

●木材・木製品

平成25年9月の全国新設住宅着工数は88,539戸（前年同月比19.4%増）、季節調整済年率換算値で1,044,000戸（前月比8.8%増）となった。持家、貸家、分譲とも前年同月比で二桁の増加となっている。利用関係別内訳では、持家は32,128戸で前年同月比14.2%増、分譲住宅は23,968戸で同23.5%増、貸家は31,892戸で同21.5%増となった。木造住宅着工数は49,118戸で前年同月比14.2%増となった。住宅着工の動向については、このところ消費マインドの改善等もあり堅調に推移している。今後の先行きは、雇用・所得環境の推移、東日本大震災からの復興状況、建設労働者の需給状況、住宅ローン金利の動向等から引き続き慎重に見極める必要がある。広島県内の着工数は1,474戸で前年同月比30.67%増となった。持家は前年同月比14.04%増、貸家は同40.15%増と二桁の増加となり、分譲が170戸から286戸へと同68.24%大幅に増加するなど、引き続き好調である。

消費税の駆け込み需要でここ半年は忙しくなりそうである。

(化学・ゴム)

●プラスチック製品製造業

自動車関係では新車種立ち上がりに伴う増産傾向にあり、全体的に良い傾向にある。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

出荷状況（24工場）

25年10月 3,950m³（対前年比24.41%増加）

25年 9月 3,597m³

24年10月 3,175m³

前年比、前年同月比で増加となるなど、景況感はやや好況となっている。

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

金属等材料の高騰が続いており、最近では入手も困難になってきている。特に特殊鋼は納期が数ヶ月先になっている物もある。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県西部観音地区においてコンプレッサーの受注が好調で、それに伴い協力会社各社の操業も上昇している。

10月の売上は納期の受注分が来月へ繰り越した影響もあり、前月比、前年同月比共に10%減少となった。

(電気機器)

●電気機械器具

10月の売上推移は前月比、前年同月比共に横ばいとなった。なかなか受注が増えず、アベノミクスの効果が見受けられない。為替は円安傾向なので、輸出が戻りを見せているが、材料の高騰により依然苦しさは変わらない。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具（造船）

内航船も少しずつ建造船が出てきている。

中手・大手の2,500総トン以上の建造許可の平成25年10月分は、11隻522,399総トン（前月7隻315,000総トン、前年同月11隻515,850総トン）であった。なお、11隻の内訳は国内船の貨物船1隻50,900総トン、輸出船10隻（貨物船8隻268,099総トン、油槽船2隻203,400総トン）である。船価の低迷により景況感はやや悪い状況である。

●輸送用機械器具（造船関連団地）

今月は特に船舶関連の受注減少が目立った。

●輸送用機械器具（自動車）

10月の国内自動車販売台数は全需が422千台、前年同月比17.3%増加で2ヶ月連続の前年超えとなり、マツダ車も同22.6%増加（16千台）と2ヶ月連続の前年超えとなった。マツダ車の9月の海外販売合計台数は94千台、前年同月比4.3%増加で3ヶ月連続の前年超えとなった。アメリカの9月の全需は1,139千台、前年同月比4.2%減少で28ヶ月ぶりの前年割れとなり、マツダ車の販売も同6.9%減少となるなど、5ヶ月ぶりの前年割れとなった。欧州の9月の全需は1,478千台、前年同月比4.4%増加と2ヶ月振りの前年割れとなり、マツダ車の販売も同23.0%増と好調で、5ヶ月連続で前年超えとなった。中国の9月の全需は1,808千台、前年同月比11.6%増加し、マツダ車の販売も市場投入した新型車が好調で同34.4%増加と18ヶ月ぶりの前年超えとなった。

輸出動向については円安の進行、定着に加えて新型車も好調で、昨年末から連続してマツダ車の輸出台数は前年超えとなっており、9月も前年同月比46.0%増加するなど10ヶ月連続前年超えとなった。生産動向については、年初から毎月連続して前年比増となっており、8月に一度前年比マイナスとなったものの、9月は輸出台数が大幅に増えたこともあり、前年同月比37.2%増加と再び増加基調に戻った。

(その他)

●家具・装備品

学習机は8月末より売場展開を始め、現段階で順調に推移している。今月末から2月にかけては消費税増税による駆け込み受注が見込める。

(卸売業)

●卸売業（総合）

円安の進行により大企業を中心に景気回復の兆しがあるが、輸入関連業者は仕入れコストアップから、業績は圧迫されており、さらに石油関連製品の価格の高止まりが収益圧迫の要因となっている。販売先小売業界の伸び悩み等総じて中小卸業者の経営環境は引き続き厳しい状況にある。

「資材」においては、産業用太陽光発電は消費税引き上げも絡み好調に推移しているが、太陽光パネルや電源供給部品の一部で供給不足となるなど、納期に間に合わないケースもある。

「食品」においては、練り製品が前年比やや減少となった。大手ショッピングセンターの出店が既存小売店の売上を圧迫している。

「雑貨」においては、日用品雑貨は昨年比横ばいとなった。業界大手メーカーが取引制度を変更するなど、中小卸業者への取引条件が厳しくなっている。

「繊維」においては、今年は例年より暖かく、台風の影響もあり、婦人下着は前年対比減少となった。また、販売先小売店の業態変更や倒産等から経営は厳しい。中国生産においては円高、工場ストライキ等不安定要素があり、インド等への生産シフトを行っている。

製造業が賃貸物件及び売却物件を求めており、問い合わせが増加している。また、派遣社員の増員から雇用の増加傾向が伺える。

●卸売業（電設資材）

産業用太陽光発電の需要は消費税増税も絡み、依然好調に推移しているが、パネル、パソコン、電源供給品等の商品供給が需要に追いつかない状況である。その影響により太陽光以外の工事物件の盤製品、キュービクルが納期に間に合わない状況に陥る可能性が出てきている。

●卸売業（家具）

国内の取引メーカーの倒産が3社あった。今後在庫を多めに持つことで消費税に対応していきたい。

●卸売業（畳・敷物）

畳表の市況は、品薄の影響もあり、全般的に高めで推移している。なお、国内では藁草の植え付け準備が始まっている。中国では長雨や大洪水の影響で畳表の製織出荷に一部被害が出ており、輸出入に影響が及んでいるため、中国産藁草の入荷が減少している。

(小売業)

●各種商品小売業

今月は先月同様台風等による雨量が多く、関東から北海道で野菜の相場が上がり、新規得意先売上が増加したため、前月比で売上は増加。ただし、前年同月比では減少した。組合員の販売状況は10月上旬は残暑の影響もあり、飲料関係を中心に引き続き好調であったが、中旬以降は降雨の影響もあり客数が減少した。また、中山間地の組合員企業では期待された松茸もあまり出回らず、売上にはつながらなかった。

●家庭用電気機械器具小売

10月度の販売実績は前年同月比0.8%減少となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比5.4%減少、BDレコーダー同5.2%減少、車載機器同16.3%減少、冷蔵庫同7.4%増加、洗濯機同2.3%減少、エアコン同1.2%増加、エコキュート（電気温水器）同3.3%減少、IHクッキングヒーター同6.9%減少となった。4Kテレビが売れ始め、単価上昇とともに売上に貢献している。また、LED照明も売上が好調である。

(商店街)

●商店街（各種商品小売業）

跡地に新規チェーン店が開店し、少し賑わいを取り戻したように見える。

(サービス業)

●自動車整備業

10月の車検台数は前月比2.0%増加、前年比4.9%減少。車検場収入は前月比1.5%増加、前年比5.2%減少。重量税・登録印紙税の売上は前月比3.8%減少、前年比10.8%減少となった。

●広告業

選挙関連での売上が目立った程度で、他に目新しいものはなく、ここにきて伸びがなくなっている。

●情報サービス

先月は売上が前月比及び前年同月比共に増加傾向であったが、今月は不変の状況となった。急速な景気回復はない状況である。

(建設業)

●工事業

10月の売上について前月比20%減少、前年同月比37%減少、前年累計比4%減少となった。カーテン工事、壁装工事は共に前年同期をクリアしたものの、全体の前年同月比は大幅にダウンするなど、今期最低の数字となった。大型物件の工事も次々と着工はしているものの、内装仕上工事にまでは至っていない。全体では工事物件はあるものの、技能士不足等から受注できない事態にもなっている。また、相変わらず企業間の格差も大きい。

10月における工事受注件数は前月比86%増加、前年比67%増加となった。

(運輸業)

●道路貨物運送業

10月は景気の上向きを反映するかのように全体的に荷動きは活発だった。メーカー各社は生産に追われており、鉄鋼関係の荷動きも多く、車両が足りない状況が続いている。車両不足は、ここ数年の減車傾向と軽油高止まりの影響により長距離を走る車両が減少していることも影響していると思われる。今後更に年末に向けて荷動きのピークがくるので、コンプライアンスを守りつつ、ネットワークによる情報をベースとした配車で利益を生み出していきたい。また、軽油価格は依然として上昇傾向にあった。

消費税増税を前に、肥料、農薬など買いだめできる商品需要が増えている。貨物量が全般的に増加しており、輸送車両が大幅に不足している。例年9月から12月は繁忙期になるが、昨年と比べ大幅に仕事量も増え、売上は増加している。

燃料価格が高止まりし、収益を圧迫している。車両、ドライバー不足が目立ってきた。

(その他)

●不動産業

前月比は、9月に地価調査基準地評価の報酬が振り込まれ、売上高等が増加したが、10月はその分の売上がないため、減少している。前年同月比は先月同様公的評価等仕事が増えた分、売上高が若干増え、収益状況についても好転している。不動産販売については、消費税増税前の駆け込み需要が前月までは多く見受けられたが、10月に入って契約時期の関係から減少している。